

未来社会創造事業 探索加速型  
「個人に最適化された社会の実現」領域  
年次報告書(探索研究期間)

令和3年度 研究開発年次報告書
--------------------

令和3年度採択研究開発代表者

[研究開発代表者名：飯島 勝矢]

[東京大学未来ビジョン研究センター・教授]

[研究開発課題名：新価値 IKIGAI 駆動による地域貢献活動の個人最適化]

実施期間：令和3年10月1日～令和4年3月31日

## §1. 研究開発実施体制

(1)「支え手側における新価値 IKIGAI の個人多様性と経時的変化観測及び具現化」グループ  
(東京大学)

① 研究開発代表者:飯島 勝矢 (東京大学未来ビジョン研究センター、教授)

② 研究項目

- ・ 地域貢献活動従事者(例. フレイルサポーター)が「新たな価値観を含んだ生きがい」を感じる状況や場面の実態の質的・量的調査
- ・ 新価値 IKIGAI を感じる地域貢献活動の支え手側のペルソナ作成
- ・ 住民個人々のライフコースでの IKIGAI 推移(経時的変化)の見える化と分析・類型化
- ・ 他の地域住民活動(例. セカンドライフ生きがい地域就労など)への発展的応用展開

(2)「支え手側 IKIGAI の新たな仮説モデル構築」グループ(西武文理大学)

① 主たる共同研究者:菅原 育子 (西武文理大学サービス経営学部、准教授)

② 研究項目

- ・ 「生きがい」に関連するポジティブな心的状態に関する諸概念および主観指標の整理
- ・ 地域貢献活動従事者(例. フレイルサポーター)を対象とした質的調査による新価値 IKIGAI の仮説モデル構築
- ・ 地域貢献活動従事者を対象とした量的調査による IKIGAI の主観指標の開発
- ・ フレイルサポーター活動現場における、主観指標と客観指標による IKIGAI 測定の検証

(3)「IKIGAI 状態の空間デザインおよび可視化」グループ(東京工業大学)

① 主たる共同研究者:西田 佳史 (東京工業大学工学院、教授)

② 研究項目

- ・ 客観指標・特徴量の開発
- ・ IKIGAI マップによる可視化
- ・ IKIGAI マップを用いた介入デザイン

## §2. 研究開発成果の概要

地域貢献活動における「地域高齢住民の支え手側」の生きがい感を、①目的・動機づけや達成感、②継続性を生む本人の快適さや居心地良さ、③他者とのつながりを基盤とする地域貢献感の3要素を含む「新価値 IKIGAI」として、文献調査に基づき主観尺度の整理を行い、IKIGAI モデル仮説を構築した。また、代表事例であるフレイルサポーターの活動を通じて生きがいを感じる場面やその達成感・地域貢献感を詳細解析するために、全国フレイルサポーターを対象に多様な体験談を調査した。合わせて、活動に対する満足度や主観的な幸福感、地域活動のレベル感を調査し、支え手側の基本属性を基盤としながら、個人々の多様な生きがい感の移り変わりとその関連要因を探索した。さらに、モデル地域のフレイルサポーターを対象にインタビュー調査を行い、その地域貢献活動に参加するまでの経験や活動継続の促進・阻害要因などを6つのカテゴリー(計

32 サブカテゴリー)に類型化した。また、従来の漠然とした生きがい感だけではなく、「身近な人の幸せ」や「心から楽しいと思えること」といった自分のごく身近な環境や状態から生じるもののほか、「存在承認の獲得」「他者から受け入れられること」といった第三者との関わりによって得られるものの重要側面が2つ以上あることが見える化された。

行動情報からの客観データの計測については、(i)音声、(ii)表情、(iii)姿勢、(iv)活動量、更に社会参加・交流の情報として(v)会話量及び発言内容、(vi)インタラクション状況を想定し、特に、基礎データとなる(i)音声、(ii)表情、(iii)姿勢の計測項目の検討のために、まずは若年者を対象として予備基礎計測を実施、数種の計測機器を選定した。また、モデル自治体フィールドのフレイルサポーター(及び行政)に客観指標開発の地域実装に向けた研究説明会を開催(個人情報保護や倫理的配慮に承諾済)し、官学民連携の研究協力体制を構築した。

以上より、本研究は新価値 IKIGAI の概念構築と技術的可視化の開発のために、3つのサブグループが連携を取りながら進めており、初動としての2021年では進捗を見せている。2022年度においては、個々のグループのさらなる精緻な研究推進と同時に、主観指標と客観指標のそれぞれをしっかりと確立し、統合させながらの地域実装に進んでいきたい。

#### 【代表的な原著論文情報】

1. Yoshizawa Y, Tanaka T, Son BK, [Iijima K](#), et al. Impact of health literacy on the progression of frailty after 4 years among community-dwelling older adults. *Int J Environ Res Public Health*. 2021 Dec 30;19(1):394. doi: 10.3390/ijerph19010394.
2. Tanaka T, Son BK, [Iijima K](#). Impact of social engagement on the development of sarcopenia among community-dwelling older adults: A Kashiwa cohort study. *Geriatr Gerontol Int*. 2022 (in press) ※令和3年度3月末時点。以下にて公開済み。 May 01;22(5):384. doi: 10.1111/ggi.14372.